

# 西鉄甘木線利用者4割減 乗つて支える 公共交通

## 乗降客が半減の駅も

宮の陣駅から甘木駅までの17・9 kmを結ぶ西鉄甘木線は、大正初期に開通。1日に上下各41本が運行し、沿線に住む皆さんの暮らしに欠かせない移動手段となつています。

しかし、平成4年度をピークに利用者が減り、1日15000人を超えていた乗降客数は、28年には9200人に。中でも金島駅は5割に減少しています。

西日本鉄道の鉄道事業本部・計画課長の川津匡宏さんは、その主な要因を「少子化や高齢化の進行」と言います。働く世代や学生などが減ると、定期利用が減るからです。また、マイカー

利用の進展に伴う生活スタイルの変化も大きく影響しています。

「西鉄久留米駅で乗り降りする人も、10年前から約2割ほど減っています。通勤や通学で定期券を利用する人ではなく、中心市街地に遊びに行く人が減っているようです。これも甘木線の利用者減に関係しています。郊外の商業施設などに、車で遊びに行く人が増えて



甘木線の現状を話す川津さん

平成4年度から年々減少。この状況が続くと、路線の存続が危ぶまれます。現状や課題、背景を探り、公共交通のこれからについて考えます。

いるからでしょう。こうした状況が続くと、路線の存続が難しくなります」と川津さんは話します。

## 利便性を低下させない

28年度、甘木線の1日1 km当たりの平均乗車人数は2873人。これは19年に西鉄宮地岳線が一部区間で廃線になった時と同程度の数値です。「甘木線は、沿線地域の皆さんの大切な移動手段です。できるだけ長く存続し、さらに利便性も確保しなければいけない」と、川津さんは力を込めます。そのため、同社は30分間隔の運行を維持。収支のバランスを取るために、ワンマン運行や駅の無人化を導入しています。

## どの路線にも必要とする人が居る

### 沿線の魅力とタイアップ

利用者を増やすため、沿線地域と連携した取り組みも進めています。新酒の季節に、甘木線沿線にある酒蔵の新酒を楽しむ「くらの細道きつぷ」を発売。飲み比べができるおちょこを、乗車券とセットで割引発売

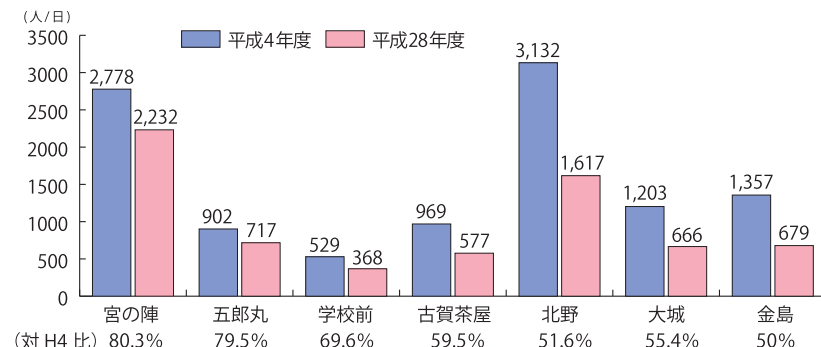
しています。7月29日、30日に開かれた大刀洗町の特産品の枝豆を生かした催しともタイアップ。交通系ICカード・nimocaを使って会場最寄りの大堰駅に行く、運賃の30%をポイント付与したり、お土産を渡したりするなどのサービスを提供しました。



甘木線北野駅で行き違う甘木行きと花畑行きの200形。平成元年撮影（提供・西日本鉄道）

## 市内各駅の乗降客数の比較

乗降客数は、ピークの平成4年と比べて、全ての駅で減少しています。特に、甘木方面に向かうほど減少の幅が大きくなり、北野駅～金島駅間は、約半分にまで利用者が減っています。



## まちづくりとの密接な関係

川津さんは「飲酒運転の心配が無いので、アルコールを楽しむイベントとも相性が良いんです。主催者は広告や来場手段が欲しいもの。互いの強みを生かし、沿線の魅力を知ってもらうことが大切」と話します。

地方で暮らす人は、都市部に比べて公共交通が生活に根付いていない人が多いと言われます。同社は、子どもたちに電車やバスを好きになってもらい、公共交通を身近に感じる人を増やすという、将来を見据えた取り組みを行っています。

## みんなで手を携えて

川津さんは、次のように締めくくりました。「この問題は、私たちだけでは解決できません。久留米市で進めているコンパクトなまちづくり（※）の取り組みは、公共交通の維持に追い風となります。また、中心市街地の活気づくりも大切。公共交通とまちづくりは連動しています。私たちは鉄道事業者や行政、市民の皆さんで、しっかり手を携えて考えるべき問題です」。

車を運転できなくなる日は誰にでも訪れます。その時、公共交通がどのような状況にあるのかで、生活が大きく左右されます。暮らしの中にある公共交通を一度考えてみると、交通手段の選択が、少し変わるかもしれません。

交通政策課 ☎0942・30・9328、FAX 0942・30・9714

## 公共交通という選択～モビリティ・マネジメント

### 安価で安全 時間の有効活用にも

「モビリティ・マネジメント」という言葉を知っていますか。過度に自動車に頼らず、公共交通などを「賢く」利用する方向に自発的に転換していこうという取り組みです。

公共交通は、渋滞緩和や排気ガス削減など、社会面や環境面でのメリットもありますが、経済的にもお得。福岡市天神に行くのに、車だとガソリン代や高速道路通行料、駐車場代など、大体4,000円程度かかります。電車だと西鉄久留米駅から往復1,240円。その上安全で、

到着時刻ははっきりしますし、移動中に休んだり本を読んだり、時間を有効に使えます。

### 効率的な生活スタイル

皆さんの選択肢に、公共交通は入っていますか。一家に複数の車がある現代。いくつかの場所を回る時など、確かに車の方が便利な場合もあります。でも、行き先や目的、行動や費用などを考え、どの移動手段が最適かと考えることは、とても効率的な暮らし方だと思いませんか。私たちは、そう考える人が増えれば、公共交通の維持につながると考えています。



交通政策課 京野利勇さん

※駅周辺などに地域生活の拠点を設定し、医療機関や商店などの日常サービス機能やそこに住む人を、維持・誘導するというまちづくり。久留米市は都市計画マスタープランや立地適正化計画を策定し、各拠点を公共交通でつないだコンパクトなまちを目指しています